

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本医学教育学会
理事長 小西 靖彦

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
- a. 特に重要と考えられる活動
- ① 我が国における医学教育研究の充実と発展
日本医学教育学会は、医学教育に興味を持ち学ぶ人たち（大学教員、病院での指導医、多職種の指導者など）に対する活動を行っている。学会誌「医学教育」における原著論文を含む研究の場を提供するとともに、学術大会において医学教育に関する研究成果を共有できる場を提供している。
この目的のために、さまざまな医学教育手法などについて、学会内に 14 の「部会」を置いて活発な活動を行っている。
- ② 医学教育人材の育成
2014 年から医学教育専門家制度を開始した。医学教育を学ぶためのコースワークを展開し、医学教育における 3 つの柱（「教育/学習法」、「評価法」、「カリキュラム開発」）において一定の能力を身につけた者に対して、医学教育専門家としての認定を行っている。2021 年 5 月現在 181 名が登録されている。
- ③ よりよい医学教育に関する社会に向けた発信（c. に詳述）
- b. 当該領域における国際的な役割
国際医学教育学会 (International Association for Medical Education : AMEE) に本学会から ambassador を送って連携を深め、Asia Pacific Medical Education Conference および WPAME (Western Pacific Association for Medical Education) の Board Member として本学会理事長が活動している。
- c. 活動からもたらされる社会的な意義
- ① よりよい医学教育についての社会への発信
すばらしい医学教育こそが我が国の高い医学の質を保證するという考えを基盤におき、学会の 16 の「委員会」が、学会誌編集や広報・情報、国際化などに関する活動を行っている。臨床研修や専門医教育の面で研修病院や専門学会と協働する委員会も活動を開始した
- ② 公的な場面での、医学教育の質向上のための助言
本学会は、医学部 6 年の教育内容のガイドラインである「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂について、文部科学省の調査・研究を 2020 年度から受託した。厚生労働省のさまざまな審議会とともに、国レベルでの政策決定プロセスに学術的・実証的助言を行っている。
- d. 学会運営上留意している点

当学会の社会に対する責任を明確にするため、2024年に向けたビジョンとして次の6つを掲げている。

- ・ 医学教育を専門とする者が、医学の学修と医療の質向上の面で必要とされている
- ・ 我々の学会が、教育病院から必要とされる活動を行い病院からの参加者が増え続けている
- ・ 我々の学会が、専門医教育の教育/学修法・評価法などの分野で基本領域学会などと対話を始め、いくつかの学会で教育プログラムの開発に関与している
- ・ 学会員と医学教育に興味を持つ人たちにとって、学術的にも実践的にも実りの多い学術大会を展開している
- ・ 国際的な医学教育学会組織と協働して、我が国の医学教育の研究と実践に関して情報発信の質と量を上昇させている
- ・ 医学教育に関する政策決定や学術的助言に、我々の学会が貢献している

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ① 2021年4月に日本解剖学会/日本生理学会と協働で、基礎系の教育に関する合同シンポジウムを開催した。
- ② 日本医学会連合の加盟学会連携フォーラム・シンポジウムとして
 1. 日本医療情報学会
 2. 日本臨床検査医学会などとの連携シンポジウムなどを企画中である。